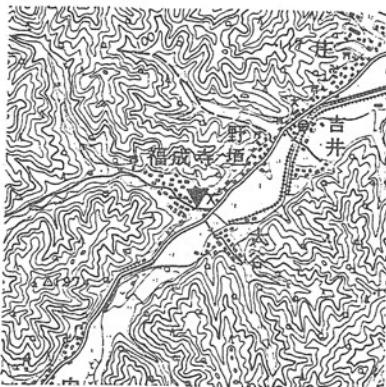


## 兵庫・福成寺遺跡 ふくじょうじ



(城崎)

国府所在地の日高町国府へ

は奈佐谷から八代谷を経て  
約一〇kmの道のりである。

さらに、円山川本流、あ

るいは海岸部の竹野方面へ  
通じるルートにも便がある。

遺跡の立地は、支谷の福  
成寺谷の開口部にあたり、

南面する山裾の水田地であ

遺跡の性格を示す遺物には、木簡のほかに陶硯が七点出土してお  
る。標高一六m前後を測る。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 所在地           | 兵庫県豊岡市福成寺       |
| 調査期間          | 一九八三年(昭58)六月~七月 |
| 発掘機関          | 豊岡市教育委員会        |
| 調査担当者         | 潮崎 誠            |
| 遺跡の種類         | 集落跡・官衙跡か        |
| 遺跡の年代         | 七~一四世紀          |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |                 |

福成寺遺跡は、豊岡市街地の西方約五km、狭長な奈佐谷の中央部に位置している。このあたりは旧但馬国城崎郡奈佐郷に属しており、

遺跡の結果、遺跡の主要な範囲は東西一〇〇m、南北一〇〇mと推定でき、とくに山裾に寄つて建物跡が集中している状況である。建物の全容は未解明であるが、径三〇cm、径二〇~二五cmの柱根も検出されており、大まかに七~八世紀代と平安時代の二期に分けられるものと見られる。遺構では柱穴以外に若干の不明ピット、溝状落ち込みが確認された程度である。

遺物の出土量は多く、整理用コンテナに約六〇箱ほど出ている。内容的には須恵器、土師器が大半を占めているが、木製品の遺存状態が良好で、建築部材、皿、曲物、下駄、横櫛、糸巻、斎串、琴柱形、刀子形などがある。また、明り取りの松明と思われる焦げつきの残る棒状製品がおびただしく出ている。土器類では、二彩の壺の蓋とプラス文のスタンプを施した須恵器の大型蓋片が注目できる遺物で、緑釉、灰釉、輸入青白磁片も若干含まれている。須恵器には漆壺や、漆の付着したものが見受けられる。



木簡(1)

(1) は調査区中央のグリッドで検出されたが、とくに遺構に伴う状況ではなかった。一一名分の人名が読み取れ、上部に男性、下部に

(1) □長石子 正丸 水取今丸  
□□中丸 御文丸 牛甘長丸 □□馬丸 一□女  
□□稻田女 □□吉成女 □□  
〔繩カ〕〔負カ〕  
(24)×30×3 039

(235)×17×5 081

(1) □長石子 正丸 水取今丸  
□□中丸 御文丸 牛甘長丸 □□馬丸 一□女  
□□稻田女 □□吉成女 □□  
〔繩カ〕〔負カ〕  
(24)×30×3 039

点、铸造に係わる小銅塊一点、とりべ片等がある。

### 8 木簡の积文・内容

り、大型蹄脚円面硯の脚台片、風字二面硯を含んでいる。また、石製鎧一点（丸鞘・鉈尾）、銅製毛彫文様金具が一点ある。墨書き器は三点あるが、高台杯の外底部に「上」と記したもの以外は習書らしく、判読できない。

その他の遺物には、土錘二三〇点、須恵質・土師質の紡錘車各一

点、石製鎧などに示されるような官衙的性格は、八世紀以降に強まるようである。しかし土錘や曲物類の大量出土、さらに漆壺・銅塊などからは本遺跡の多様な性格をうかがうことができる。詳細な検討は行っていないが、七世紀代の遺物がかなりの量を占めている点も

遺跡成立の契機を推し測る上で注目しておきたい。

本遺跡をあえて但馬国城崎郡衙に比定する根拠は充分でなく、今のところ有力な候補地ではあるが、郡域における位置や環境がやや変則的とも思える。郡よりさらに下級の郷・里といった単位に伴う可能性を含め、今後の検討に待ちたい。

### 9 関係文献

豊岡市教育委員会『福成寺遺跡概要報告書』(一九八三年)

(潮崎誠)